

熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2025年9月調査)

「熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2025年9月調査)」を実施した結果を公表いたします。(発送数:280、回収数:105、回収率:37.5%、回収期間:2025年9月19日～9月30日)本アンケートは、県内の観光・レジャーの動向をいち早く捉えるために実施しております。

1. 熊本県観光DI まとめ

| | 現状判断DI (7月～9月) | 見通しDI (10月～12月) |
|--------------|-------------------|--------------------|
| 合計(N=105) | 43.3 | 55.2 |
| 行政・協会(N=37) | 48.0 | 56.8 |
| 宿泊施設(N=29) | 29.3 | 56.0 |
| 集客施設(N=11) | 47.7 | 45.5 |
| 飲食・物販(N=6) | 50.0 | 66.7 |
| 交通・代理店(N=12) | 47.9 | 58.3 |
| その他(N=10) | 52.5 | 47.5 |

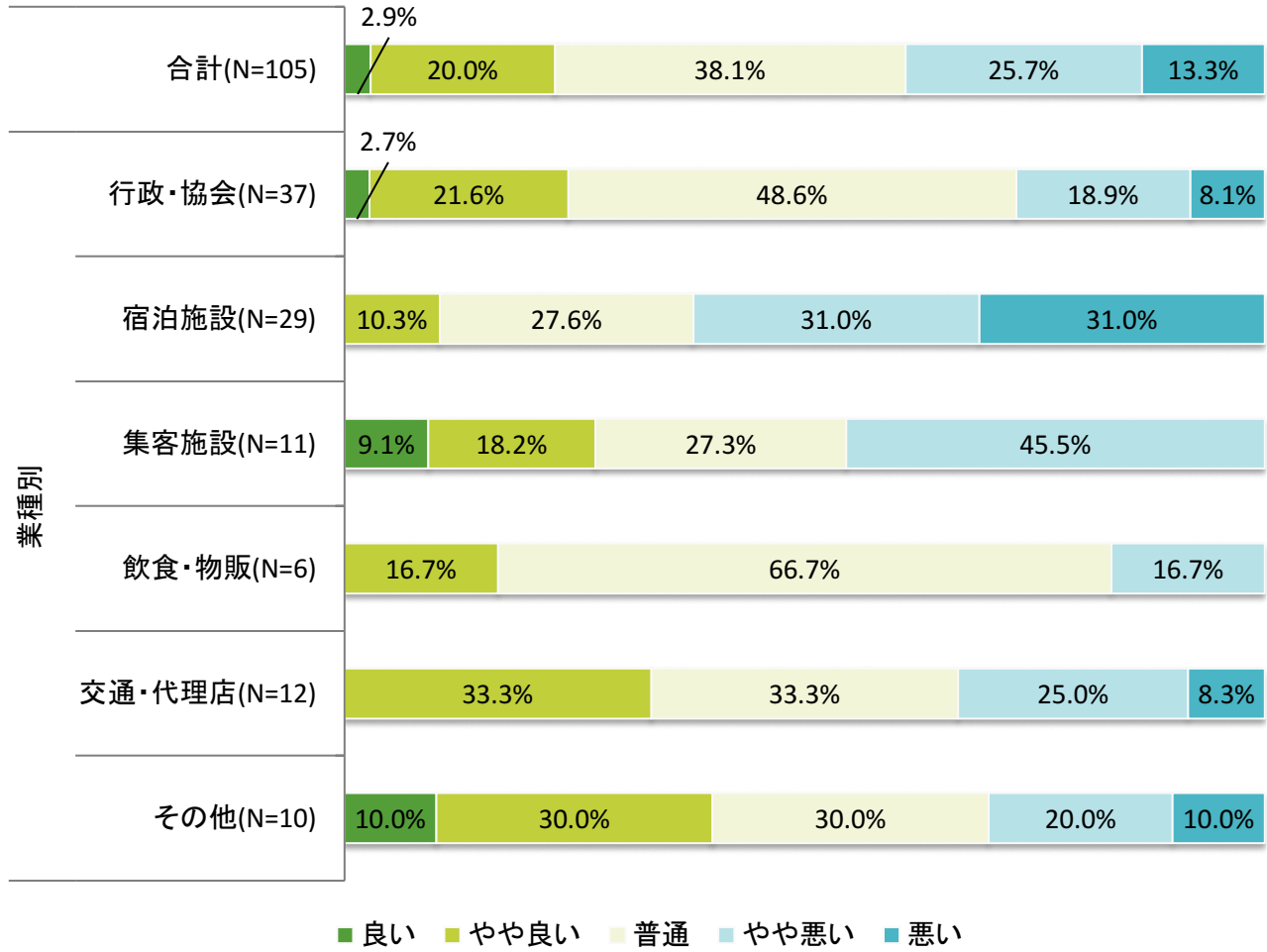
7～9月の熊本県の現状判断DIは43.3となり、前期(53.8)から10.5pt低下した。業種別にみると、飲食・物販、その他の2業種で景況判断の節目である50を上回っていた。

インバウンド需要の増加や団体客の回復により、景況感是好調と回答するコメントがある一方、物価高の影響による国内旅行者の旅行控えや夏の異常気象による旅行者の減少といったコメントも散見され、現状判断DIが大幅に低下する結果となった。

見通しDIは55.2となり、前回(54.5)から0.7pt上昇した。行政・協会、宿泊施設、飲食・物販、交通・代理店の4業種でDIは50以上であった。

見通しを良くなると判断する要因として、県内各地で大型イベントの開催が予定されていること、団体旅行者の増加といったコメントが見られた。悪くなると判断する要因としては、引き続き物価高騰に伴う国内客の旅行控えや宿泊需要の低下といったコメントが見られた。

2. 7～9月期の動向、景況感



7～9月の景況感は、全体では「良い」と「やや良い」の合計が22.9%、「悪い」と「やや悪い」の合計は39.0%となった。

業種別にみると、宿泊施設で「悪い」と「やや悪い」の割合が過半数を占める。

【コメントの抜粋】

●良い
阿蘇、熊本市内の店舗はインバウンドの来熊が好調で売上は2019年時点を大幅に越える売上を達成。上天草の店舗は県内在住者の来館者が減少傾向だが、インバウンドが増えており、カバーされている。(集客施設)

●やや良い
団体の旅行が増えたから(交通・代理店)

●普通
観光客は以前の賑わいに戻りつつあるが、物価高、人件費高騰等の影響を受けて、県在住者の旅行控えが懸念されるため。(行政・協会)

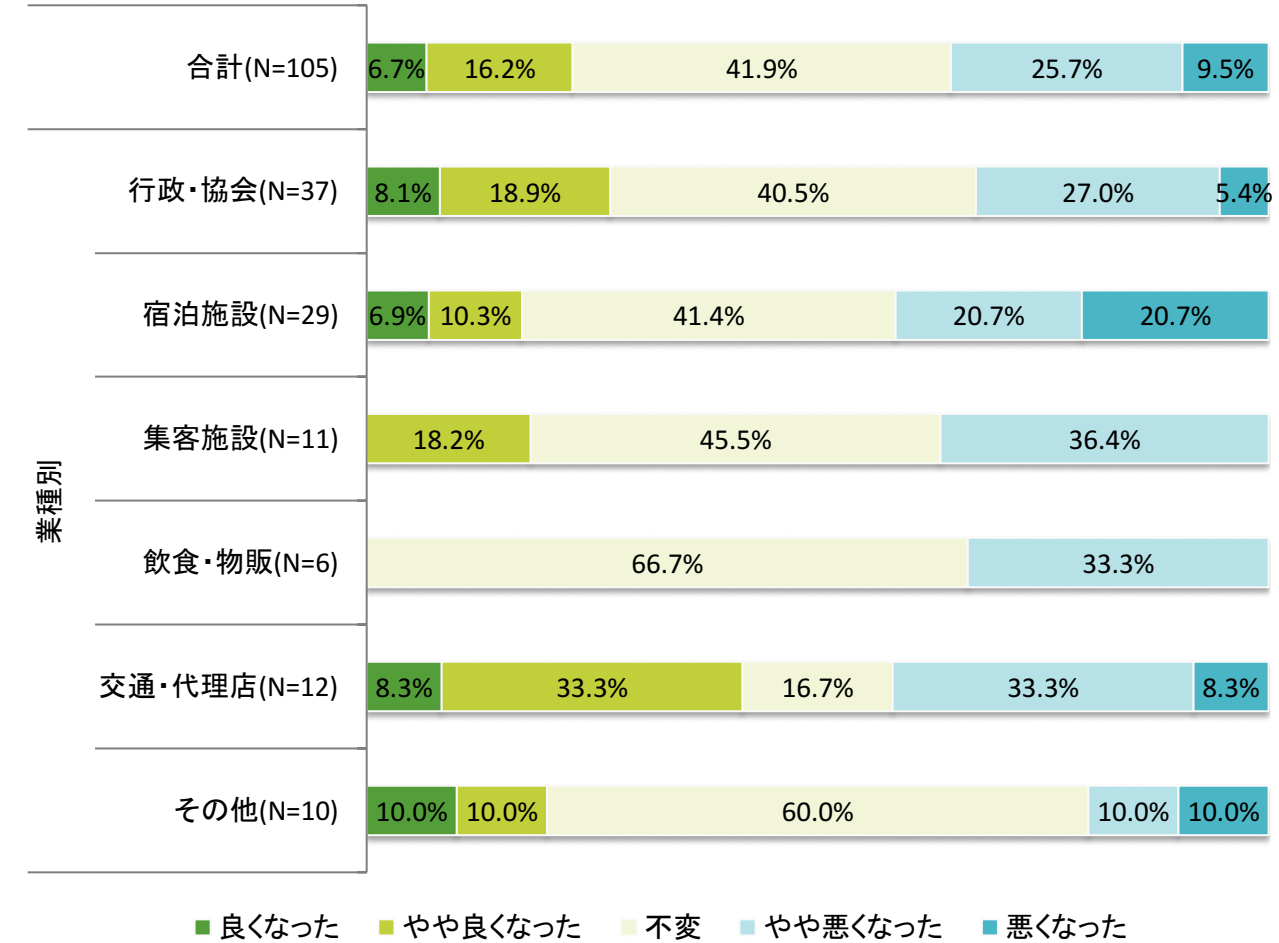
売上が昨年並みだから。(飲食・物販)

●やや悪い・悪い
8月のお盆の時期に豪雨災害により被害があったため、観光客がかなり減少した。(行政・協会)

日中の暑さの影響でなかなか集客に苦しんだ。また、異常気象の影響で余儀なく休館をした(集客施設)

例年夏休みで家族連れの利用が多いが今年は予約が伸び悩みADRも下がった。インバウンドの取り込みができなかった。(宿泊施設)

3. 4～6月期に比べた7～9月の動向、景況感



4～6月期に比べた7～9月の動向・景況感は、全体では「良くなった」と「やや良くなった」の合計が22.9%、「悪くなった」と「やや悪くなった」の合計は全体で35.2%となり、後者の比率が高い結果となった。

【コメントの抜粋】

●良くなった
7～8月期の来場者数が4～6月期来場者より増加しているから。(行政・協会)

●やや良くなった
価格改定を実施したが、それによる減員はなく、単価が上昇した分売上増になっている。(仕入れも増)。(集客施設)

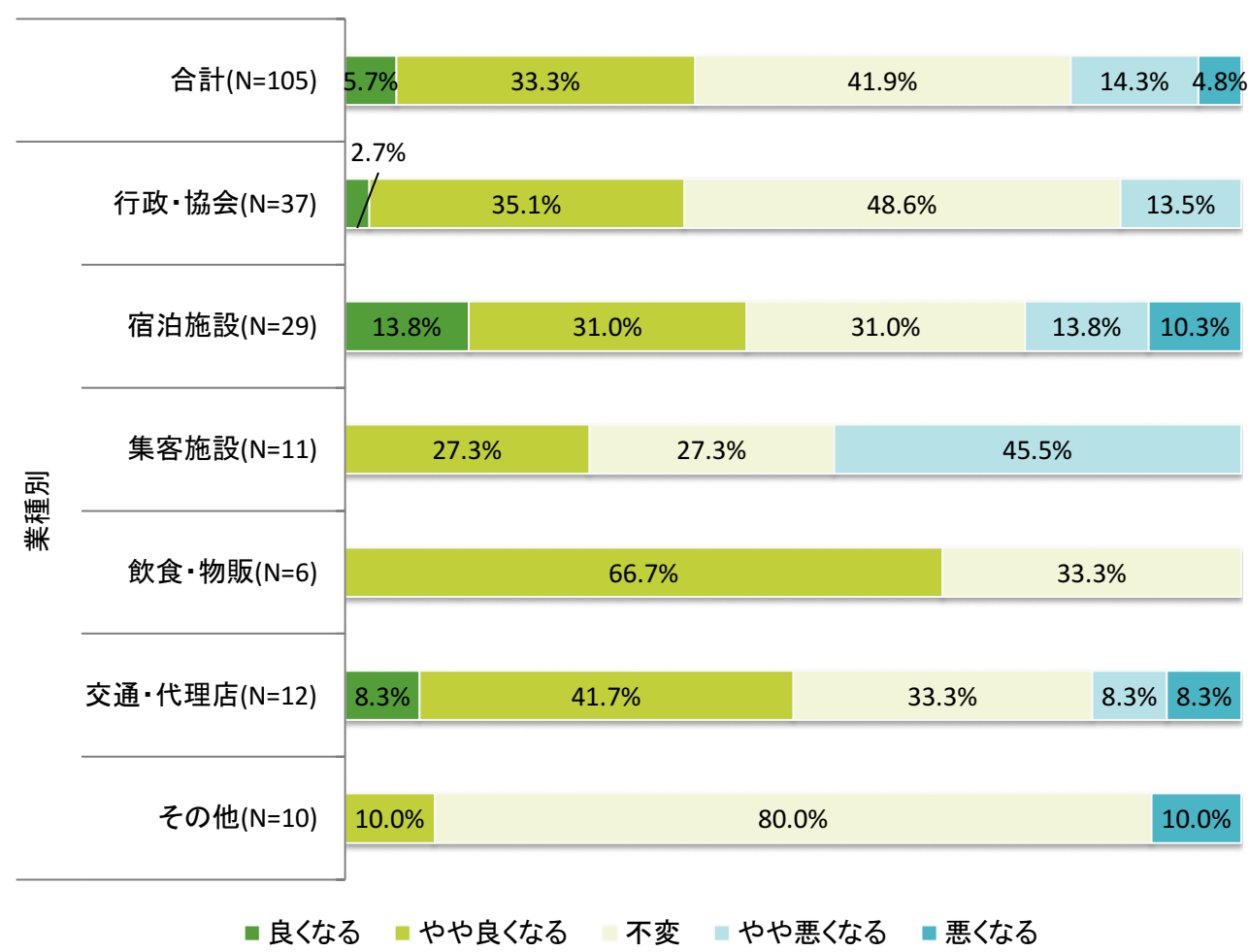
数値上、やや良くなっている。(交通・代理店)

●不変
集客数・売上等の傾向が変わらないため。(飲食・物販)

●やや悪くなった・悪くなった
4～6月に比べると動きが鈍い。国内客は大阪万博に向いている感が強い。国内団体(社内旅行)は方面競合で大阪万博にとられた案件が複数あった。(宿泊施設)

インバウンドの数が9月は減ったように感じます。(行政・協会)

4. 今後、12月までの業況の見通し



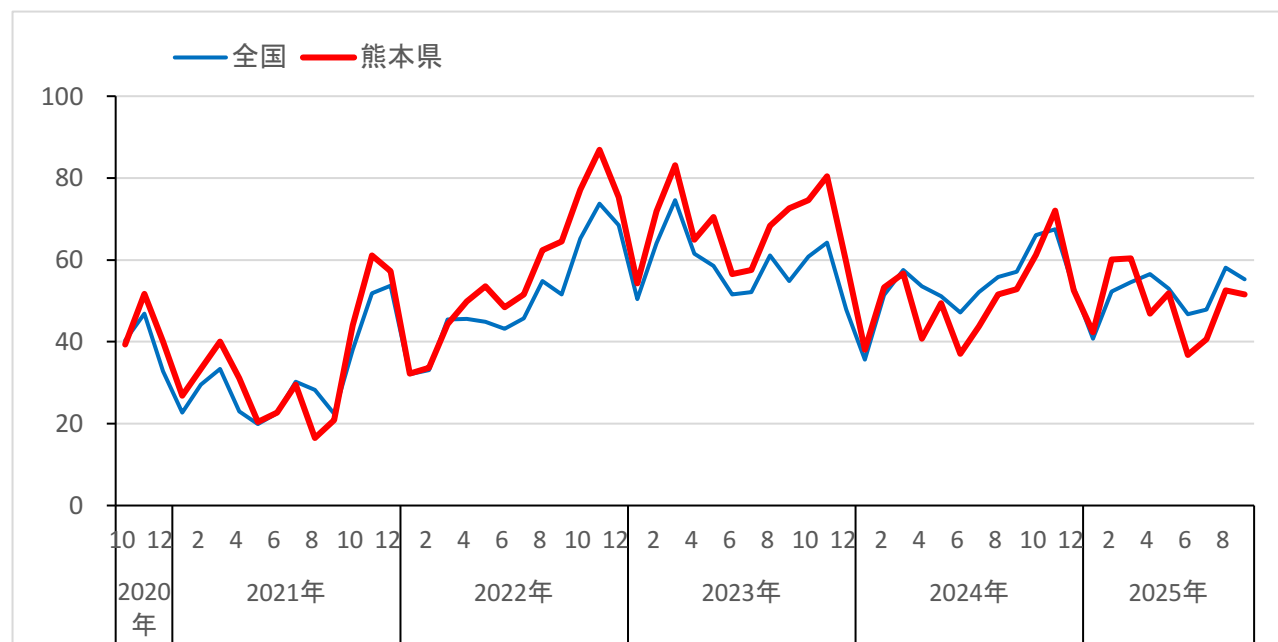
今後12月までの業況の見通しは、全体で「良くなる」と「やや良くなる」の合計は39.0%、「悪くなる」と「やや悪くなる」の合計は19.1%となった。
業種別にみると、飲食・物販、交通・代理店の2業種で「良くなる」と「やや良くなる」の合計が過半数を占める。

【コメントの抜粋】

- 良くなる
台湾の大型インセンティブが10月、11月に集中、FITも動きが活発になってきているため。(宿泊施設)
全国的に観光のトップシーズンとなる為。(交通・代理店)
- やや良くなる
大型イベントの閉館に伴う観光客の分散が見込める から。(飲食・物販)
秋のくまもとお城まつりなど、イベントを多く予定しており、昨年も10月以降入込数が増えたため。(行政・協会)
- 不変
インバウンド増加の天井が見えてきたため。(その他)
- やや悪くなる・悪くなる
物価高がレジャーの行動をにぶらせている。(集客施設)
全体的な宿泊需要の低下。(宿泊施設)

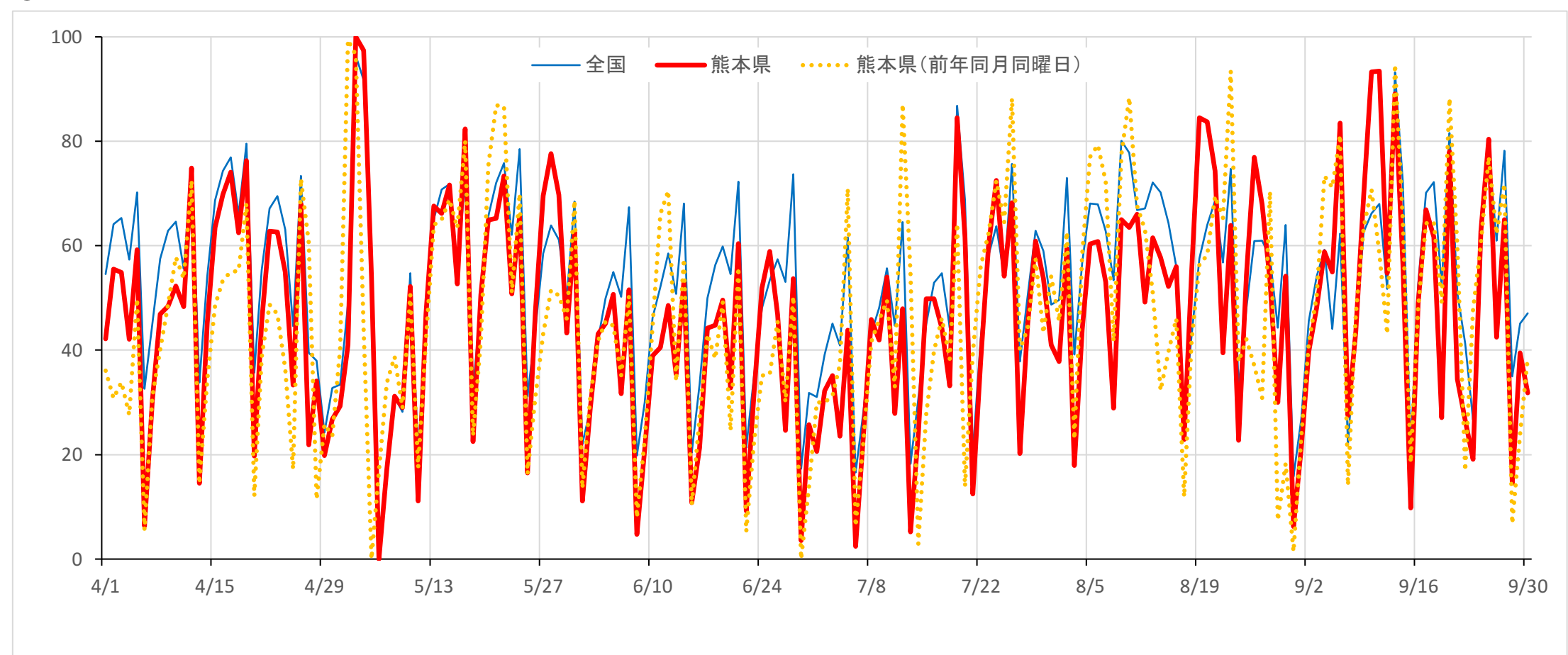
5. 宿泊稼働指数の動向

①月次別(2020年10月～2025年9月)



2025年7月における熊本県の宿泊稼働指数は40.6(前年同月差▲3.1pt)、8月は52.6(同+1.0pt)、9月は51.6(同▲1.3pt)となった。
2025年6月から同年9月まで、8月を除いて前年同月の指数を若干下回っている。また、2025年4月から6カ月連続で全国同月指数を下回った。
地域別で見ると、避暑地である菊池渓谷を擁する菊池地域で、高水準の推移がみられた。一方、第2四半期に引き続き、水俣市、芦北町などの水俣・芦北地域では指数の低下幅が比較的大きい。

②日次別(2025年4月1日～9月30日)



熊本県の宿泊稼働指数を日次別(原数値)で見ると、7月上旬から8月下旬にかけて緩やかに上昇したのち、9月上旬から9月下旬にかけては横ばいに推移している。夏休みやお盆のシーズンは、平日・土休日で大きな差がないまま推移した。
7～9月の92日間のうち、42日で宿泊稼働指数が前年同日差プラスを記録しており、宿泊稼働指数が50を超えたのは45日であった。平日及びお盆休み(8/13～15)周辺は前年の指数を上回る日が多かったものの、土休日は前年を下回る日が増加した。全国と比較すると、期間を通じて熊本県が全国を下回る日が多かった。

用語解説

※DI(ディフュージョン・インデックス)
同調査におけるDIは、現在の景況感(現状判断)、現在と比べた3ヶ月後の見通し(先行き判断)に対する5段階の判断に、それぞれ点数を与え、これらの回答区分の構成比(%)を乗じたものである。(良い…+1、やや良い…+0.75、変わらない…+0.5、やや悪い…+0.25、悪い…0)。DIが50を超えた場合、景気が上向いていることを示す。

※宿泊稼働指数
宿泊稼働指数は日次の空室の水準を指数化したもので、(公財)九州経済調査協会が推計・公表。原数値は 0 から 100 の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100 に、稼働状況が悪い場合は0に近づく。なお、2020 年 4～6月分については、緊急事態宣言による休業が多く発生していたことから、同期間に営業していた施設のみを分析対象としている。
具体的には、以下の式より算出している。

$$100 - \left(\left(\text{当日の空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数} \right) / \left(\text{当日を含む過去730日の最大空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数} \right) * 100 \right)$$

本稿では、①月次別では、日次(原数値)データを7日間周期のデータとみなして要因分解し、曜日要因を除いたものを単純平均したもの、②日次別では原数値を使用している。